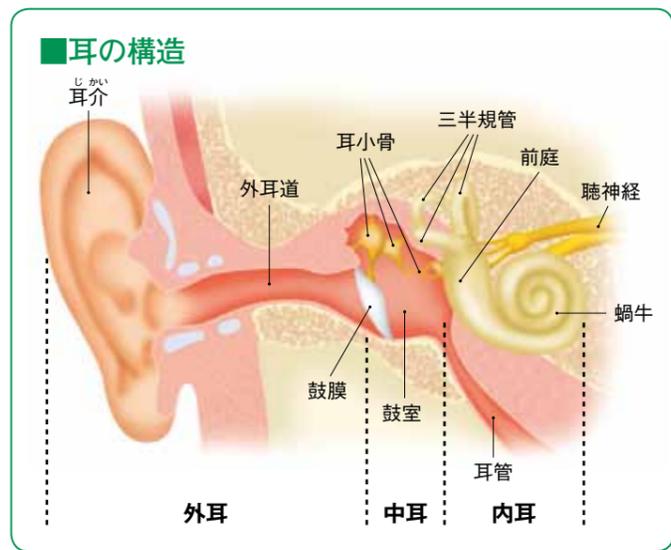


# 中耳炎

## 耳の構造と中耳炎

耳は構造的に、外耳・中耳・内耳の3つに大きく分かれている。私たちが普段目にするのができる耳介と呼ばれる部分から鼓膜までが外耳で、鼓膜までの音の通り道を外耳道と呼ぶ。鼓膜から内耳までの部分が中耳で、鼓室と呼ばれる空間に、鼓膜の振動を内耳に伝える3つの小さな骨(耳小骨)がある。最も耳の深部にあるのが内耳

で、中耳から伝えられた音を受け取る蝸牛と平衡感覚を維持する三半規管、前庭から成っている。中耳炎とは、中耳にある鼓膜の内側に鼻から耳管を経由して細菌が入って起こる感染症のことで、主に耳漏(耳だれ)や耳痛、難聴、耳がふさがったような耳閉感などの症状が現れるのが特徴だ。



## 小児に多く見られる急性中耳炎と滲出性中耳炎

急性中耳炎は、風邪によるのどや鼻の炎症などが原因で起こり、中耳内にたまった膿が鼓膜を圧迫するため、強い痛みや発熱がある。主に1〜3歳の乳幼児に多い。耳鼻咽喉科の阪上雅史主任教授は「抗生物質を飲めば1週間くらいで治まりますが、ここ20年の間に耐性菌が出現し、患者さんの10〜20%

は難治化・反復化します」と話す。このため、初期治療においては適切な抗生物質の投与が大切で、重症の場合は膿を取り出す鼓膜切開術が必要となると言う。「また、急性中耳炎にかかった後、病原菌が残っていると、完治までに数か月〜数年もかかる滲出性中耳炎や慢性中耳炎に移行する場合もあります」。

## 手術による治療が基本の慢性中耳炎と真珠腫性中耳炎

慢性中耳炎は急性中耳炎の慢性化によるもので、中年層に多く見られる。あまり痛みがないため、発病しても放置されがちだが、鼓膜に穴が開いているので、中耳に水が入ったり感染が起きたりすると、耳漏(耳だれ)が生じ、聞こえも悪くなる。こうなると穴の大きさに関係なく、手術が必要となる。放っておくと炎症が進み、真珠腫性中耳炎になることもある。

真珠腫性中耳炎は、鼓室内で上皮細胞が増殖し、周囲の骨などを溶かしていく病氣。「腫」という名称がついているものの、腫瘍やがんとは関係がない。慢性中耳炎に比べて炎症の度合いが強い進行性の病氣で、5〜10年と時間をかけて徐々に大きくな



慢性中耳炎



真珠腫性中耳炎

## 鼓室形成術と接着法

慢性中耳炎と真珠腫性中耳炎の場合、病巣を摘出した後、開いた鼓膜の穴を閉じ、耳小骨を再形成して聴力を改善する「鼓室形成術」と呼ばれる手術が行われる。

「多彩な真珠腫性中耳炎の病態に対し、兵庫医科大学病院では、外耳道保存型鼓室形成術と外耳道切除型鼓室形成術を基本に、年齢や職種、聴力、耳漏や合併症の有無など患者さんのおかれている環境や病状を見ながら、最適な手術法を選択しています。その結果、真珠腫性中耳炎で多い局所再発率も10%

以下に抑えることができます」。手術時の麻酔は、全身・局所のどちらでも可能だが、真珠腫性中耳炎の場合は手術に2〜3時間ほどかかるため、原則として全身麻酔をかけるという。「鼓室形成術はほぼ確立された治療で安全なので、安心して受けてください」と阪上教授。なるべく患者さんの日常生活のリズムを乱さないよう、入院期間は1週間弱で、基本的に耳後部の剃毛はせず、通院回数も少なく済むようにしているという。患者さん一人ひとりの立場に配慮した医療を心がけているのが伝わってくる。

軽い慢性中耳炎には「接着法」と呼ばれる手術を用いる。血液を原料としたフィブリン糊という接着剤で、外耳道から鼓膜の穴のふちと皮下組織を貼り付ける手術だ。これは日本で考案された術式で、阪上教授は2007年〜2011年まで、アメリカ耳鼻咽喉科学会において、考案者である湯浅涼医師(仙台中耳サージセンター)と共同で「接着法」の教育コースを持つほどの権威。この方法だと、2泊3日の短期入院で行うことができ

るため、患者さんの生活への負担も少ない。

## 手術をしないという選択も

鼓室形成術では、総数、鼓膜穿孔閉鎖率、聴力改善率とも全国トップレベルの兵庫医科大学病院。大学病院としては毎年全国1位の手術数を誇っている。

その一方、病状によっては手術をしないという選択肢もあるという。「例えば、高齢の方で、真珠腫があっても耳だれが出ておらず、手術をしても年齢的に聴力の改善が期待できない場合などは、患者さんと話し合い、手術を行わないこともあります」。患者さんの生活や健康状態を一番考えている姿勢が伺える。



耳鼻咽喉科 阪上 雅史 主任教授、副院長(2012年4月より)

### 診療最前線

#### 兵庫医科大学病院 鼓室形成術総数

2006年	227例
2007年	249件
2008年	241件
2009年	298件
2010年	306件
2011年	351件
(2006-2011:大学病院1位、2006-2009:全国病院3位、2010-2011:同4位)	

がん

目・耳・鼻・口の病氣

胃・腸・食道の病氣

呼吸器の病氣

骨・関節の病氣

脳・神経の病氣

皮膚の病氣

肝臓・すい臓・胆嚢の病氣

腎臓・泌尿器の病氣

循環器と血液の病氣

全身の病氣

こころの病氣

女性の病氣

子どもの病氣